令和８年度

「運営に関する計画」
（中間評価）

大阪市立依羅小学校

令和８年 10 月

（様式１）
大阪市立依羅小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

学校教育目標を「互いを認め合い　未来に向かって　ともに伸びようとする子の育成」と掲げ、「やさしい依羅の子の楽しい学校」づくりをめざし、以下の内容に取り組んでいる。

【安全・安心な教育の推進】

・子ども理解を徹底し、子どもの自尊感情を育む。（毎月のいじめアンケート・登校支援・たてわり活動　等）
・人権教育を基盤とし、互いを認め合い、自分や他の人を大切にする子どもを育む。（インクルーシブ教育・平和学習・国際クラブ　等）
・創立 153 年（令和８年度時点）をふまえ、地域とともに教育活動に取り組む。（地域学習・依羅地域活動協議会、住吉区東部人権教育研究協議会との連携）
・生活背景を含めた子ども理解のための、保護者との連携に取り組む。（家庭訪問・ホームページ等による情報発信　等）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・教職員が互いに切磋琢磨し、教員としての力量を高める。（授業研究会・メンター研修・特別支援教育研修・ICT 研修　等）
・誰一人取り残さない学力の向上に取り組む。（アフタースクール・自立活動　等）

（令和７年度全国学力・学習状況調査　平均正答率）

	本校	大阪市	全国
国語	66%	65%	66.8%
算数	57%	58%	58.0%

【学びを支える教育環境の充実】

・教育活動を計画的・組織的・意図的に行うためのカリキュラムマネジメントに取り組む。（「依羅の教育」の編成　等）
・安全、安心で気持ちよく過ごせる施設・設備の整備に取り組む。

・教育活動の充実を目的とした教職員の「働き方改革」を進める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 11 年度末までに、全国学力・学習状況調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。

○いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を 100%にする。

○前年度の不登校児童生徒の割合を 50%以上改善する。

○令和 11 年度末までに小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 11 年度末までに全国学力・学習状況調査における学力に課題の見られる児童生徒の割合の全国との差（算数）を０%以下にする。

○令和 11 年度末までに「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和 11 年度末までに小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。

○令和 11 年度末までに「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】に基づき、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

○いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を 100%にする。

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント減少させる。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 35 時間以下とする。

（前年度１か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えていない教員の割合 72.2%）

大阪市立依羅小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

１【安全・安心な教育の推進】

年度目標	達成状況
【最重要目標1　安全･安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 ○いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を 100%以上にする。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 学習者用端末を用いたいじめアンケートや相談申告機能、心の天気などで認知したいじめについて解決するようにする。	A
指標 ・学校アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 ・いじめアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・解決に努める。 ・令和８年度実施するいじめアンケートにおいて、認知したいじめについて、解決した割合を 100%にする。	
取組内容②【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 ８時 40 分までに登校の確認が取れていない児童の状況を把握し、登校支援をする。	A
指標 ・８時 40 分までに登校していない児童を確認し、電話連絡または家庭訪問を行う。 ・昨年度の不登校児童の把握をし、毎月対象児童について情報の交流をし、アセスメントの共通理解を図る。	

取組内容③【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 自己肯定感を高める活動及び他者理解や互いに認め合う活動や機会を学年の実態に応じて日頃より取り組んでいく。 指標 ・学校アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・学校アンケートにおける「友だちと一緒に勉強や活動をすることは楽しいですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上とする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

前期の学校アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 83.8%と目標を上回ることができた。毎月実施している「いじめアンケート」や「心の天気」、「相談機能」を活用することで、児童の悩みごとや困りごとを早い段階で察知することができている。また、「いじめアンケート」においては、いじめはもちろんのこと、些細なトラブルも早期発見することができている。認知したいじめ事案については、すべて記録しているので、過去の事案とのつながりや継続的に起きていないのかを確認することができている。

取組内容②

毎朝８時 40 分までに登校できていない児童の家庭には、必ず登校確認の連絡をすることが徹底できている。また、不登校及び不登校傾向の児童の対応についても、教職員間で情報共有することができている。

取組内容③

前期の学校アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 97.4%、「友だちと一緒に勉強や活動をすることは楽しいですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 94.5%とともに目標を上回ることができた。各学年で自己肯定感を高める活動及び他者理解や互いに認め合う活動や機会を計画的に取り組むことができている。また、運動会や遠足などの学校行事は、主体性や協調性を育むことにもつながるので、授業以外の教育活動も大切にしていきたい。

後期への改善点

取組内容①

「いじめを絶対に許さない」という指導を全教職員で共通認識をもち、「いじめアンケート」の取組においても、これまでどおり実施・聞取り・記録を徹底していく。また、児童に関する情報共有やいじめ事案の解決から解消に至るまでを確実に実施できているのかを確認していく。

取組内容②

今後も引き続き、登校確認の連絡を徹底していく。その中で、きょうだい関係による架電の重複が何度かあったので、学年間で連携を強化する必要がある。また、不登校及び不登校傾向の児童への対応は難しいケースが多いため、これまで以上に情報共有や学校全体で対応していく必要がある。

取組内容③

自己肯定感を高める活動及び他者理解や互いに認め合う活動や機会は各学年で実施されているが、学年間での実践内容や効果の共有ができていない。今後よりよい取組にしていくためにも、部会や職員会議を通して、異学年間での情報共有を行う必要がある。

大阪市立依羅小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

２【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標	達成状況
【最重要目標2　未来を切り拓く学力･体力の向上】 ○小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント減少させる。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 児童の実態を把握し、基礎・基本的な学習内容の定着を図り、児童一人一人に応じた指導や支援を行う。	B
指標 ・週に１回（年間 25 回以上)、アフタースクール（放課後学習）を実施する。 ・「質の高い授業づくり」を通して、授業力向上を図る。 ・教員の授業力向上のため、教員間で授業を参観できる体制を整える。	
取組内容②【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 学力保障担当者会及び研究推進委員会を中心に、児童の学力向上に向けた取組を共有し、教職員の授業改善を図る。また、算数科における前年度標準化得点 100 に満たしていない児童を把握する。	B
指標 ・小学校学力経年調査等の出題内容、問題傾向及び前年度の結果の分析を行い、教職員の授業改善につなげる。 ・前年度標準化得点に満たしていない児童をリスト化・共有するとともに個に応じた支援につなげる。 ・学校アンケートにおける「算数の授業の内容はよく分かりますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。（前年度 89.7%） ・学校アンケートにおける「算数の授業で苦手なところが分かり、できるようになっていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。	

取組内容③【基本的な方向５、健やかな体の育成】 運動することの楽しさを実感できるように、遊びや運動に関する取組を企画し実施する。また、授業を通して、運動の楽しさを実感させる。	B
指標 ・学校アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・委員会が中心となって、休み時間にできる体を動かす遊びや運動の楽しさを紹介する。 ・運動週間を年２回実施し、運動への意欲が高まるように運動週間用のカードを準備したり運動の仕方を発信したりする。 ・年３回の校内研究と年３回の校内研修を行い、教員の指導力向上を図る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

計画通りアフタースクールを実施し、基礎・基本的な学習の理解・定着を支援することができた。アフタースクールでの学習形態、授業、課題解決、ゲームを取り入れた活動など、各学年で参加児童の実態に応じて工夫をしている。授業づくりに関しては、学年で日ごろから授業の進め方や板書、効果的な資料の活用などの情報共有をしながら進めている。また、日々の授業や家庭学習の様子から、個々のつまずきや児童が苦手とする内容を把握し、速やかに対応している。各自の時間調整により「質の高い授業づくり」等の授業を参観することができている。授業後には、管理職や参観した教員から指導講評をもらい、学ぶ機会を設けることができている。さらに、これまで効果的であった学習方法を共有して、授業改善に生かすことができている。

取組内容②

小学校学力経年調査等の出題内容、問題傾向及び前年度の結果の分析が教職員に共有されており、その結果をふまえて授業改善に取り組むことができている。また、前年度標準化得点に満たしていない児童のリスト化・共有がされており、アフタースクールでの取組を含め、個に応じた支援が行われている。前期の学校アンケートにおける「算数の授業の内容はよく分かりますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 89.6%と前年度（89.7%）を上回ることができなかった。一方で「算数の授業で苦手なところが分かり、できるようになっていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 88.7%と目標を上回ることができた。

取組内容③

前期の学校アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 89.6%であった。前期に大縄週間があったことや、今年度から一輪車と竹馬をのびのびと昼のびに自由に使えるようにしたことも、運動を楽しむきっかけの１つになったと考える。年３回の校内研究については予定通り行われており、「楽しい授業づくり」をテーマに教員同士で意見交換も行っている。

後期への改善点

取組内容①

児童の学習意欲をどのように高めていくのか、粘り強く学習に取り組むことのできる児童の育成についても検討していく。教員の空き時間が少なく、参観する時間をとることが難しいため、体制を整える必要がある。また、質を高めるための意見交換の機会を逃さないようにする。

取組内容②

分析結果から児童の学力の状況や課題は理解できている。今後は、課題に対する具体的な指導方法や授業展開例を共有し、授業改善につなげていく。児童のつまずきを早期に発見し、対応していくとともに、児童の達成感を向上させる取組や底上げのための取組を行っていく。

取組内容③

今後も取組を継続して行っていく。また、後期にも運動週間を行い、委員会が中心となって、休み時間にできる体を動かす遊びや運動の楽しさを紹介する予定である。各学年、各クラスの実態に応じて取り入れてもらいたい。

大阪市立依羅小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

３【学びを支える教育環境の充実】

年度目標	達成状況
【最重要目標3　学びを支える教育環境の充実】 ○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。 ○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 35 時間以下とする。 （前年度１か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えていない教員の割合 72.2%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 児童の ICT 利用を促進し、習慣化を目指す。 指標 ・学習内容に合わせて学習者用端末を活用した話し合い活動を実施する。 ・学校アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向６、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ICT 活用に関する校内研修を行い、教員の指導スキル向上を図る 指標 ・ICT 活用に関する校内研修を月に１回実施する。 ・意見共有ツール（SkyMenu、Forms など）活用に関する校内研修を年に３回実施する。 ・前年度と比較して、ICT 機器・デジタル教材を授業で効果的に活用できた教員の割合を向上させる。	B
取組内容③【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 校内で定められている退勤時刻を遵守し、教職員一人一人が計画的に業務に取り組む。	

指標	
・月３回の「ゆとりの日」と月１回の「定時退勤日」を設定する。(繁忙期を除く。) ・「ゆとりの日」「定時退勤日」と通常時の 18 時 30 分閉庁となるよう、見通しをもって校務に取り組む。 ・健康防止機能を活用し、教職員が時間外勤務を日々確認しながら業務に当たる。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

学習内容に合わせて SkyMenu や Google Classroom のスライド作成などを活用したグループワーク・全体発表を取り入れ、自分の考えを友だちと共有・比較する話し合い活動ができている。また、「心の天気」の入力やまなびボックスを活用したデジタル課題の取組、デジタルテストの導入など、日常的に端末を活用する機会を作ることができている。一方で学年によっては、発達段階に応じた活動の難しさが感じられる。前期の学校アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 85.1%に達し、目標を大幅に上回っている。

取組内容②

月 1 回のペースで ICT に関する校内研修を計画的に実施できている。SkyMenu の取組や NotebookLM 等の活用事例、音源編集など、授業や学校行事に直結する実践的な活用方法の共有、教員の指導スキル向上や効果的な活用方法を周知することができている。９月に実施した教員向けアンケートにおいて、「前年度と比較して ICT 機器・デジタル教材を授業で効率的に活用できていますか」という質問に対して、肯定的な回答が 81.8%であった。

取組内容③

ゆとりの日や定時退勤日に限らず、日々の時間外勤務の状況を確認しながら業務にあたる体制が概ね定着した。教材準備などを SSS が担うことで、担任の業務負担が軽減された。一方で閉庁時間の短縮により、業務を持ち帰って行う教職員が多く見られるため、さらなる業務改善、効率化を求めていきたい。

後期への改善点

取組内容①

発達段階に応じて生活科や道徳科をはじめとする活用しやすい教科を精査し、日常的な端末の使用頻度をさらに高める。また、授業でのスライド作成や思考ツールを用いた協働学習の機会を増やし友だちの考えと共有・比較する話合い活動をより深めていく。端末を活用する機会をより多く取り入れ、学習成果の共有や振り返り活動を工夫し、児童の学習意欲や発信力のさらなる向上を目指す。

取組内容②

月１回の研修を継続するとともに、具体的な授業実践事例の共有や活用法についての情報交換をより一層活性化させる。単に活用事例を共有するだけでなく、実際の授業で活用する教員をさらに増やし、どのような場面で活用すると効果的かを具体的に共有し、実践へとつなげる。今年度末に再度同内容の教員アンケートを実施し、中間アンケートで得られた肯定的な評価を下回らないよう維持及び向上を目指す。

取組内容③

退勤時刻を意識した計画的な業務遂行を継続するとともに、ICT の活用による業務の効率化をさらに進める。また、業務内容の精選や分担の見直しを行い、持ち帰り業務の削減につなげていく。特に早朝時間外で必要な業務（看護当番やプール準備、ライン引き等）と勤務時間の整合性をどのように図っていくかについては検討していくべき課題である。